指定校番号	28056	学級活動		児童会・生徒会活動	○	学校行事		別紙様式

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立壬生小学校	校　長	松島　尚志	生徒指導主事	岡田　克朗

取 組 事 例 名	『児童による「いじめ撲滅宣言」を生かした集団づくり』

取　組　の　ね　ら　い『児童自身が主体的に行う活動の充実』

1　課題発見・解決力の向上

・　児童が，自分たちの学校からいじめや，友達を傷つけることをなくしていくための方法を考え，自分たちの考えを実行していくことを通して，いじめをはじめとする人権侵害を自らなくしていこうとする態度を養う。

＊　設定課題　いじめをなくすために自分たちで何ができるか。

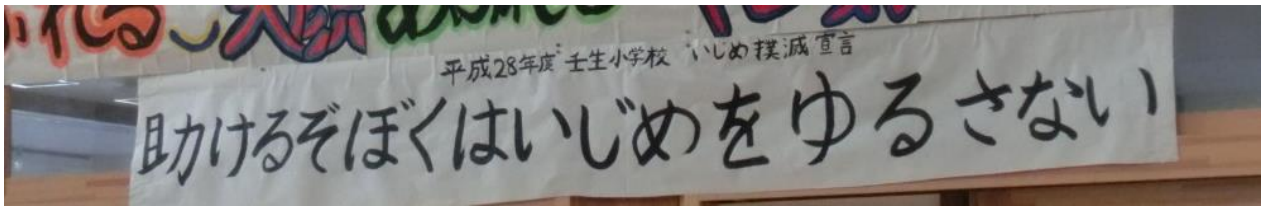
2　思考力・判断力・表現力の向上

・　いじめのない学校であり続けるためにどんなことができるか考え，効果的に実践していく方法や全校に広めていく表現を工夫することを通して，思考力・判断力・表現力を養う。

3　自己肯定感・自己有用感の向上（児童会企画委員会及び高学年児童）

・　自分たちが考え，取り組んだ活動によって，いじめをなくそうという思いや行動が全校に広まっていくことで，達成感を感じ，自己肯定感や自己有用感を高める。

取 組 の 具 体 的 内 容『自己決定によるめあての設定とふりかえりによる態度の定着』



1　児童会企画委員会が，全校に呼びかけ，「いじめ撲滅宣言」をつくることを全校に呼びかける。

2　作成した宣言を全校に発表するときに，以下の内容を学級に提案する。

・　いじめ撲滅をつくるときに集めた意見や，児童会企画委員会の話し合いにより考えた「今，課題だと思うこと」や「やったらいいと思うこと」を具体的に設定する。それに基づいて各学級で目標を設定し，いじめをなくすことを意識して生活し，壬生小学校から自分たちの力で，いじめをなくしていく。各学級の目標は，できるだけ具体的にし，行動に表しやすいものにする。

（例）全体目標「言葉づかいに気を付けよう」→学級目標「ちくちく言葉を使わないようにしよう」
「仲間はずれをなくそう」　　→学級目標「一人の人がいたら声をかけよう」
「遊ぶときは友達をさそおう」（等）

3　各学級で決めた目標をカードに書き，掲示する。

4　この目標を意識して生活する。意識させるため　に定期的に学級の暮会で，振り返りをする。

5　定期的な振り返りにより，学級の目標を強く意識させる。また，学期末の児童総会では，各学級代表が，自分達が取り組んだ結果を発表する。

6　児童総会の結果や，２学期の様子を踏まえて，３学期の「いじめ撲滅」に関する目標を児童会企画委員会は考え，全校に提案する。これを受けて各学級では，継続して「自分たちで安心して生活できる学級をつくっていく」態度を育てていく。

取組の課題・創意工夫『児童の自主性・自治能力の発揮』

課題

児童会活動や委員会活動の内容にあまり変化がなく，課題を発見し解決する活動として改善の必要がある。

児童が，児童会・委員会活動に意欲的に取り組んでいるが，成果を実感できにくく，達成感や自己肯定感を十分に感じられていない。

創意工夫

この取組では，昨年度まで，自主的に「いじめ撲滅宣言」を決定してきた活動を継承，発展させた。児童会企画委員会が「いじめをなくす」ために呼びかける内容を自分達で考えさせた。その訴えに対して，各学級の児童が確実に応え，「安心して生活できる学校づくり」進めるために全児童が取組を行っていく。このことを児童会企画委員会の児童が，発見した課題を解決するために活動した成果として実感し，自信と達成感を感じるよう工夫した。

他の委員会活動においても，少しずつ生活を向上させることができていることや，発見した課題を解決していることを意識できるよう評価するなど，活動への意欲が高まるよう配慮している。児童が活動したことが全体の成果になっていることを強く実感することで，課題の解決への自信や意欲が高まったり，自己肯定感，自己有用感を向上させたりしていきたいと考える。

取組の成果（効果）『児童の姿の成長』

２学期末に行った児童アンケートの結果は次の通りである。

（数値は肯定的回答の割合）

「学校は安心して生活できる」　(90%)

「自分は友達から認められている」　(85%)

「自分は，クラスの友だちや他の人の役に立っている」　(85%)

取組を通して，全校で上級生を中心に，「いじめは許さない」とみんなが思っていることを再確認したり，学級でいじめをなくそうという目標をもって，友達と話し合ったりできたことが，少なからず学校で安心して生活できるという思いを強めることにつながった。児童総会ではどの学級も具体的に学級の取組の様子を発表することができた。

このことで，中心的に関わった児童会企画委員会の児童の活動への意欲も高まったととらえている。

６年生全体でも，まだまだ少ないが，自分たちで課題を見つけ，解決を訴える場面も見られるようになってきている。２学期末のアンケートでは，児童の自己肯定感や，自己有用感も高い数値を示した。

今　後　の　展　開『創造と継続』

「自分たちの生活をよくしていくために，自分たちで行動していく。」ことが児童会・委員会活動の大きな目標であることを自覚した上で，児童が活動に取り組んでいく風土をつくっていく。そのために，児童会企画委員会をはじめとするすべての委員会で，活動の目的を確認することと，目的に即して，成果を振り返ることを行い，成果が生活の中に現れている様子を具体的につかめるよう評価し，生活の課題を見つけ，解決していく活動を重ねることが重要であると考える。

他校へのアドバイス『支援と評価』

活動にあたって，自己決定の場を大切にすることが重要である。「昨年度，取り組んでいたから」，「先生に言われたから」というあいまいな理由では，活動の意欲付けにならない。「自分たちが見つけた課題を，自分たちで解決していく」ことを目標として常に意識付けることが大切である。